

2020年5月26日

各位

四国新幹線整備促進期成会

「四国新幹線整備促進期成会」2020年度総会の
書面決議結果について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、当期成会の事業運営に格別のご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本年度の総会につきまして、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面開催とし、このほど、下記のとおり決議しましたので、お知らせいたします。

敬具

記

○ 審議事項

- (1) 第1号議案 2019年度 事業報告ならびに収支決算(案)
 - ・原案のとおり承認されました。
- (2) 第2号議案 2020年度 事業計画ならびに収支予算(案)
 - ・原案のとおり承認されました。
- (3) 第3号議案 令和3年度(2021年度) 政府予算等に関する要望(決議案)
 - ・原案のとおり承認されました。

<添付資料>

- ・2019年度事業報告ならびに収支決算
- ・2020年度事業計画ならびに収支予算
- ・令和3年度(2021年度) 政府予算等に関する要望

以上

[お問い合わせ先] 四国経済連合会 吉本
T E L : 087-851-6032
F A X : 087-821-9384
Email : yoshimoto@yonkeiren.jp

2019年度事業報告ならびに収支決算

四国新幹線整備促進期成会

1 2019年度事業報告

(1) 中央要望について

①東京大会の開催

2019年8月22日に3回目の東京大会を開催し、四国選出の国会議員、四国の行政、経済界など約500名が参加した。大会では中長期目標として、リニア中央新幹線が新大阪まで延伸されスーパー・メガリージョンが誕生する2037年を一つのターゲットとして、四国の新幹線の開業を目指すことを採択した。大会終了後、千葉会長、各県知事などが、国（国交省・財務省）および自民党本部に対し、四国の新幹線の整備計画への格上げに向けた法定調査を実施するための予算措置、新幹線建設予算の大幅増額について要望を行った。

②自由民主党四国ブロック両院議員会四国新幹線プロジェクトチームとの決議

2020年3月26日、当期成会から上記プロジェクトチームに対して、「四国における新幹線の実現に係る決議」の提案を行い、連名で決議のうえ、自由民主党稲田幹事長代行・整備新幹線等鉄道調査会会長に要望を実施した。

(2) シンポジウムの開催について

2020年2月1日、高知市において当期成会および高知県鉄道高速化促進期成同盟会の主催によるシンポジウム「四国の新幹線を考える in 高知」を開催した。約700名の参加を得て、新幹線導入に向けた地元機運の醸成につなげた。

(3) 新幹線調査について

2019年8月30日、昨年度に実施した「四国新幹線整備に伴う岡山県への波及効果調査」の結果を取りまとめて公表した。

(4) その他

四国の新幹線啓発ポスターのリニューアルなど各種広報資料等を活用して四国新幹線に関する広報活動を展開し、地元機運の醸成を図った。また、「四国の新幹線 絵画コンクール」を実施し（次年度に表彰式を予定）、若年層への理解促進を進めた。

2 2019年度収支決算

収 入 額	8, 5 4 7, 0 0 2 円
支 出 額	6, 6 9 6, 7 2 3 円
差 引 残 額 (翌年度へ繰越)	1, 8 5 0, 2 7 9 円

(1) 収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	予算に対する 増 減	備 考
負 担 金	7, 271, 000	7, 271, 000	0	年度負担金 4, 580, 000 円 4 県連携費 2, 691, 000 円
雑 収 入	0	37	37	利息
前年度から繰入	1, 275, 965	1, 275, 965	0	
合 計	8, 546, 965	8, 547, 002	37	

(2) 支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	予算に対する 増 減	備 考
事 業 費	8, 000, 000	6, 658, 526	▲1, 341, 474	
大会活動	2, 000, 000	1, 719, 283	▲280, 717	東京大会会場代等
シンポジウム	3, 000, 000	2, 864, 820	▲135, 180	高知シンポジウム負担金等
総会	0	323, 028	323, 028	総会会場代等
啓発活動等	3, 000, 000	1, 741, 585	▲1, 258, 415	絵画コンクールに伴う制作費、啓発ポスター作成、パンフレット増刷、HP運営・保守 等
会議費	0	9, 810	9, 810	会議室代
事 務 費	30, 000	38, 197	8, 197	振込手数料、印鑑作製等
次年度へ繰越	516, 965	1, 850, 279	1, 333, 314	
合 計	8, 546, 965	8, 547, 002	37	

2020年度事業計画ならびに収支予算

四国新幹線整備促進期成会

1 2020年度事業計画

当期成会の中長期目標「リニア中央新幹線が新大阪まで延伸される2037年を一つのターゲットとして四国の新幹線の開業を目指す」の実現に向けては、環境影響調査や工期などを勘案すると、2021年度での法定調査の実施が必要であり、本年度は極めて重要な年として位置づけられる。

また、昨年10月の「四国の鉄道ネットワークのあり方に関する懇談会Ⅱ」で了承を得た中間整理において、四国が目指すべき公共交通ネットワークの将来像の骨格として新幹線を位置付けるなど、四国の新幹線は単なる鉄道的高速化に留まらず、四国の公共交通を支え得る大きな方策として重要性が高まっている。

こうした情勢を踏まえ、2020年度において、当期成会は、法定調査の実施への要望活動の積極的展開や新たな広報事業などを中心に、次の事業を実施する。

なお、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を踏まえ、事業の実施については、状況に応じた柔軟な対応を図ることとする。

(1) 中央要望の強化など

- ・四国の新幹線の整備計画への格上げに向けた法定調査の実施等について、国など関係機関に対する要望活動を精力的に展開する。
- ・「第4回 四国新幹線整備促進期成会 東京大会」を開催し、首都圏での理解促進と機運醸成を図る。

(2) 四国での機運醸成

- ・各種シンポジウムや説明会を継続して実施する。
- ・若年層への情報発信強化とともに、新型コロナウイルスによる社会的影響を受けにくい取組みとして、ツイッターなどSNSを活用した広報・啓発活動を展開する。

(3) その他

四国と本州の接続点となる岡山やリニア中央新幹線で東京・名古屋と結ばれる関西など関連地域の理解促進に努める。

2 2020年度収支予算

収 入 額 9, 130, 279 円
支 出 額 9, 130, 279 円

(1) 収入の部

(単位：円)

科 目	2020 年度予算額	2019 年度予算額	2019 年度に 対する増減	備 考
負 担 金	7,280,000	7,271,000	9,000	年度負担金 4,580,000 円 4 県連携費 2,700,000 円
前年度から繰入	1,850,279	1,275,965	574,314	
合 計	9,130,279	8,546,965	583,314	

(2) 支出の部

(単位：円)

科 目	2020 年度予算額	2019 年度予算額	2019 年度に 対する増減	備 考
事 業 費	8,010,000	8,000,000	10,000	
大会活動	2,000,000	2,000,000	0	東京大会会場代等
ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ	2,000,000	3,000,000	▲1,000,000	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ会場代等
啓発活動等	4,000,000	3,000,000	1,000,000	SNS 等による情報発信、絵画コンクール賞品等、HP 運営・保守 等
会議費	10,000	0	10,000	会議室代
事 務 費	30,000	30,000	0	振込手数料・看板保険料等
予 備 費	1,090,279	516,965	573,314	
合 計	9,130,279	8,546,965	583,314	

令和3年度(2021年度)政府予算等に関する
要 望

【四国の新幹線に係る法定調査実施など】

令和2年(2020年)〇月〇日

全国各地で新幹線の整備が進む中、四国は唯一新幹線の具体的計画のない地域として取り残され、その利便性を十分に享受することができず、地方創生に取り組む他地域との競争に大きく後れを取っている。また、JR四国は、急速な人口減少や高速道路に対する競争力の欠如等からその経営環境はますます厳しさを増しつつあり、新幹線なくしてその将来の姿を描けなくなっている。

このため、昨年10月18日に開催された「四国における鉄道ネットワークのあり方に関する懇談会Ⅱ」の中間整理においても、四国が目指すべき公共交通ネットワークの将来像の骨格として、新幹線が位置付けられたところである。

四国の新幹線は、四国の将来を見据えた地域づくりに必要不可欠なインフラであることはもとより、西日本における広域交流圏の形成や大規模災害への対応力向上、リダンダンシーの確保など、国土全体の一段の有効活用にも大きく寄与するものとする。

平成29年度から国において行われている「幹線鉄道ネットワーク等のあり方に関する調査」では、瀬戸大橋の活用、単線新幹線や交流人口を加味したB/Cの新たな算出方法などの具体的な検討が行われており、この調査をさらに進めることにより、四国の新幹線の整備計画への格上げに向けた法定調査に繋げ、四国の新幹線の早期実現への道を開いていただくよう強く要望する。

当期成会では、早ければリニア中央新幹線の大阪延伸が実現し、スーパーメガリージョンが誕生する2037年を一つのターゲットとして四国の新幹線の開業を目指すとの中長期目標を掲げており、この目標に向け国に対する以下の要望を決議する。

○決議事項

1. 四国の新幹線を四国の公共交通の骨格と位置づけ、一日も早い実現をはかるため、国は令和3年度(2021年度)予算編成において、整備計画格上げに向けた法定調査を実施するための措置を講ずること。
2. 四国の新幹線が実現し、これによってJR四国の自立的な経営が確立されるまでの間、JR四国に対する国としての支援を継続して実施すること。
3. 新幹線ネットワークの早期整備による「地方創生回廊」の実現に向け、
 - ・「地方創生回廊中央駅」としての新大阪駅の結節機能強化や容量制約の解消を図るために実施する調査等については、四国の新幹線の整備も考慮したものとする。
 - ・新幹線整備予算の拡充や新たな財源の活用など、新幹線整備の仕組みを抜本的に改革すること。

令和2年(2020年)○月○日
四国新幹線整備促進期成会
会長 千葉 昭